

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：64302

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H00525

研究課題名(和文) 人権と差別をめぐる比較宗教史

研究課題名(英文) History of Comparative Religions Concerning Human Rights and Discriminations

研究代表者

磯前 順一 (Isomae, Jun'ichi)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：60232378

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 19,590,000円

研究成果の概要(和文)：平成28-30年度科研基盤(C)「差別から見た日本宗教史再考―社寺と王権に見られる聖と賤の論理」(代表者磯前順一)の成果を踏まえながら、さらに近代国民主権および民主主義の基盤をなす「人権」思想と差別の関係を、日本にとどまらず、欧米やアジア諸国の宗教伝統との関係から比較宗教史的方法を使って考察した。

具体的には、西洋啓蒙思想に基づく人権思想が、その宗教伝統とどのように関係しているのかを、他の地域や時代の宗教伝統と比較・分析することで、激しいさまざまな差別観(人種、宗教、性、社会集団)と人権思想が切り離すことができない関係にあることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界の各地域社会固有の宗教伝統に基づいて比較史的な分析を行い、欧米・日本の人権思想の長所と短所を整理しつつ、人権思想と差別観の双方にはさまれる形で成立する各地域の公共性のあり方の特質を検討した。その成果として、比較宗教史的視点から各国の差別と宗教の在り方を検討し、公共圏の成立が排除としての差別との不即不離な関係にあることを明らかにした。特に日本において差別と宗教の関係性を明確化し、大阪の渡辺村や京都の鴨川流域など具体的な地域固有の様相を通して、宗教を通しての差別のあり方を考えることの大切さを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Based on the results of the Scientific Research (C) "Reconsidering the History of Japanese Religions from the Viewpoint of Discrimination: The Logic of the Sacred and the Profane in Shrines, Temples, and Kingship" (Representative: Junichi Isomae), we further explored the relationship between discrimination and the idea of "human rights" in Japan, the West and other Asian countries. Specifically, by analyzing how the human rights based on Western Enlightenment thought relates to its religious traditions from the viewpoints of Theoretical Studies, Historical Studies, and Area Studies, We clarified the inseparable relationship between the human rights and various views of discrimination and exclusion (race, religion, gender, social group).

研究分野：宗教学

キーワード：宗教 差別 聖なるもの 公共性 聖俗論

1. 研究開始当初の背景

西洋近代に由来する人権思想の世界的な普及にもかかわらず、当の西洋においても、あるいは日本などの他のさまざまな地域においても、差別（人種差別だけでなく、いじめや戦争、テロまでを含む）が依然としてなくならないのは、なぜだろうか。本研究では、これまで「聖なるもの」と「俗なるもの」の二分法で説明されてきた「宗教」と「社会」とのありかたの理解を、日本宗教史と世界諸地域の比較宗教史との学問の蓄積からあらたに問いなおし、現代社会における公共性の問題と結びつけて検討する。そのことで、公共空間における差別と聖化の仕組みがあきらかになり、より具体的な公共性のあり方についての議論を深めることができる。

2. 研究の目的

本研究では、宗教概念論と公共宗教論を発展させ、聖俗論の批判的検討を軸に比較宗教史の観点から世界諸地域の宗教伝統を遡り、人権と差別との関係性を探る。さらにそこで得られた知見をもとに、公共空間のあらたな構築のありかたを模索する。本研究の独自性と創造性は、宗教は私的空間、世俗は公的空間という二分法を問い直し、聖俗論を公共性の研究と結びつける点にある。日本宗教史における聖なるものと賤との関係についての実証的な研究成果を欧米の公共性論に接合し、主権を基盤とする人権概念とその宗教的根拠との関係から、公共空間での差別と聖化の仕組みを解明する。これまで抽象的な理論の次元や現代的な諸問題に焦点を置いて議論されてきた公共性の問題に、最新の歴史的視点が導入され、具体的な公共性のあり方を検討する可能性が開かれる。また、そうした具体的な公共性を踏まえることで、既存の公共性の議論に重要な貢献をおこなうことができる。

3. 研究方法

平成31年度に開かれたニューヨーク会議では、聖俗論と公共性論との接合について議論した。同会議には徐禎完氏（翰林大学日本学研究所所長）、酒井直樹氏（コーネル大学教授）、タラル・アサド氏（ニューヨーク市立大学名誉教授）、ガヤトリ・スピヴァク氏（コロンビア大学教授）、ヘント・デ・ブリース氏（ニューヨーク大学教授）、平野克弥氏（カリフォルニア大学ロサンゼルス校准教授）、マリオン・エガート氏（ルール大学ポーフム教授）、全成坤氏（翰林大学教授）を招聘し、日本からは研究代表の磯前と、国際日本文化研究センター教授の荒木浩氏、松田利彦氏、安井真奈美氏、楠綾子氏、同機関研究員のブラダン・ゴウランガ・チャラン氏、友常勉氏（東京外国語大学教授）が参加した。

三日間に及ぶ苛烈なその討論から、公共性の前提を成す人間の社会の基本容態、すなわちハンナ・アレントが「複数性」と名づけた「人間関係の網の目」は翻訳不能であることを基本的性質とする。それがあがるゆえに、いかなる他者との共存形態を模索するか、社会的存在としての人間の翻訳行為が決定的に重要になると考えた。いわゆる翻訳不能なものを翻訳するという行為であり、そこで成立する複数性の存在容態を「共約不能なものの共約可能性」と規定した。そこで生まれた社会に属する構成員たちには社会的権利としての人権が付与されるが、本会議でむしろ注目したのは、そこで同時に社会から排除される「聖なる人間（ホモ・サケル）」とジョルジョ・アガンベンが呼んだような、排除される人間——当該社会においては「非人間」とみなされるが排除されていくシステムであった。それを、タラル・アサドにならって、「翻訳不能なものの翻訳をめぐる政治学」と名づけ、本科研の方法論的視座に据えた。

4. 研究成果

平成28~30年度科研基盤(C)「差別から見た日本宗教史再考——社寺と王権に見られる聖と賤の論理」（代表者磯前順一）の成果を踏まえながら、さらに近代国民主権および民主主義の基盤をなす「人権」思想と差別の関

係を、日本にとどまらず、欧米やアジア諸国の宗教伝統との関係から比較宗教史的方法を使って考察した。具体的には、西洋啓蒙思想に基づく人権思想が、その宗教伝統とどのように関係しているのかを、他の地域や時代の宗教伝統と比較・分析することで、激しいさまざまな差別観(人種、宗教、性、社会集団)と人権思想が切り離すことができない関係にあることを明らかにした。以上のことを明らかにする際に、各社会固有の宗教伝統に基づいて比較史的な分析を行い、また、欧米・日本の人権思想の長所と短所を整理しつつ、人権思想と差別観の双方にはさまれる形で成立する各地域の公共性のあり方の特徴を検討した。

更に、この理論的視座を踏まえながら、日本の地域社会の一つである大阪市浪速区渡辺村での実地調査を複数回行い、人権思想・差別・宗教の関係性を歴史的な具体例に即しながら検証した。以上の成果として、法蔵館から全三巻から成る論文集『シリーズ宗教と差別』を公開した。具体的には、『差別の構造と国民国家(第一巻)』では上述した比較宗教史的視点から各国の差別と宗教の在り方を検討し、公共圏の成立が排除としての差別との不即不離な関係にあることを明らかにした。『差別と宗教の日本史(第二巻)』では日本宗教史の観点から日本における差別と宗教の関係性を明確化し、日本の歴史における被差別民のカテゴリーを分類し、それぞれの社会的役割を明確にした。『差別の地域史(第三巻)』では上記の理論的成果を踏まえながら、大阪市浪速区渡辺村における地域史の分析を通して、その地域固有のローカル・ヒストリーを「厚い記述」として再現した。

なかでも令和3年度を中心に行なった、京都と大阪の歴史における差別の諸相をめぐる研究は、今まで一括して「関西の差別」として扱われていた各地域社会における被差別民の存在形態が、京都では犬神人や非人を中心とするものであったのに対して、大阪では散所に拠点を置く芸能民が中心であったことが明らかにされた。京都の差別の歴史が、磯前順一による「五条橋 異界への誘い」「殺生 河原者の呟き」「病 救いをもたらず信仰」「死と往生 救済という欲望」「悪人正因説と平等 差別しているのは誰か」といった五回の報告をもとに、世界各地の宗教を研究する研究メンバーによるコメントによって議論が中世都市論を中核とするものへと深化された。他方、大阪の差別の歴史については、研究協力者の吉村智博氏(大阪公立大学客員研究員)を中心とする大阪渡辺村の被差別部落地域のフィールド調査を行い、浪速歴史展示室にて、磯前・吉村・浅居明彦(部落解放同盟浪速支部)による座談会によって、大阪南部を拠点とする宗教芸能都市としての大阪の側面が明らかにされた。さらに研究代表者の磯前が当該年度を総括する報告として、2022年3月17日に国際日本文化研究センターにて「居場所はできたかい? 震災と社会差別、東日本大震災11年」と題する研究発表を行い、日本、韓国、中国、アメリカ、イギリス、インドなど各地からの研究者が参加し、活発な議論が行われた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Isomae Jun'ichi、Pradhan Gouranga Charan	4. 巻 47
2. 論文標題 Secularism and Untranslatability: Reading Talal Asad's <i>Secular Translations</i>	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Religious Studies Review	6. 最初と最後の頁 165 ~ 175
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/rsr.15198	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小倉慈司	4. 巻 (32)
2. 論文標題 「古代天皇与神祇祭祀」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本学研究	6. 最初と最後の頁 3-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 金澤豊	4. 巻 58
2. 論文標題 自然災害時における仏教の実践的研究 災害の記憶をめぐる仏教者の役割を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界仏教文化研究論叢	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小倉慈司	4. 巻 691
2. 論文標題 皮革生産賤視観の発生	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 磯前順一
2. 発表標題 居場所はできたかい？ 震災と社会差別、東日本大震災11年
3. 学会等名 国際日本文化研究センター、木曜セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩谷彩子
2. 発表標題 ロマの進行形アーカイブとしてのちくはぐな住居
3. 学会等名 第28回アーカイブ研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩谷彩子
2. 発表標題 過剰なる建築と音楽 ルーマニアのロマ御殿とマネレにみられる共同体の記憶
3. 学会等名 第9回ロマ・ジプシーシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青野正明
2. 発表標題 植民地朝鮮における村落レベルでの「神社」 画像で見る神社施設の諸相
3. 学会等名 朝鮮史研究会関西支部例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉慈司
2. 発表標題 皮革生産賤視觀の発生
3. 学会等名 日本史研究会古代史部会例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉慈司
2. 発表標題 皮革生産賤視觀の発生
3. 学会等名 日本史研究会古代史部会例会（大会個別報告代替報告）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩谷彩子
2. 発表標題 コミュニティをまとう音楽　　ロマ御殿に響くマネレ
3. 学会等名 「ディアスポラの記憶と想起の媒体に関する文化人類学的研究」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩谷彩子
2. 発表標題 記憶の場、その表層におけるつながりと断絶　　ルーマニアのロマの家屋と音楽の事例より
3. 学会等名 「ダイナミズムとしての生　　情動・思考・アートの方法論的接合」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩谷彩子
2. 発表標題 布の再利用からとらえるグローバル・インド
3. 学会等名 2019年度第1回合同研究会「環流する南アジア」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩谷彩子
2. 発表標題 変化するカルペリア芸能と女性
3. 学会等名 「南アジアにおける女性芸能者の特質とスティグマに関する文化人類学的研究」2019年度第3回研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 磯前 順一、吉村 智博、浅居 明彦、上村 静、苅田 真司、川村 覚文、関口 寛、寺戸 淳子、山本 昭宏	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 324
3. 書名 差別の構造と国民国家	

1. 著者名 楊 際開、伊東 貴之、鍾以江	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 464
3. 書名 「明治日本と革命中国」の思想史	

1. 著者名 タラル・アサド、苅田 真司	4. 発行年 2021年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 250
3. 書名 リベラル国家と宗教	

1. 著者名 磯前 順一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 280
3. 書名 昭和・平成精神史 「終わらない戦後」と「幸せな日本人」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小倉 慈司 (Ogrura Shigeji) (20581101)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授 (62501)	
研究分担者	苅田 真司 (Karita Shinji) (30251458)	國學院大學・法学部・教授 (32614)	
研究分担者	吉田 一彦 (Yoshida Kazuhiko) (40230726)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・名誉教授 (23903)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鍾 以江 (Zhong Yijiang) (40735586)	公立小松大学・国際文化交流学部・教授 (23304)	
研究分担者	Pradhan Gouranga (Pradhan Gouranga) (40847224)	国際日本文化研究センター・研究部・プロジェクト研究員 (64302)	
研究分担者	久保田 浩 (Kubota Hiroshi) (60434205)	明治学院大学・国際学部・教授 (32683)	
研究分担者	山本 昭宏 (Yamamoto Akihiro) (70644996)	神戸市外国語大学・外国語学部・准教授 (24501)	
研究分担者	寺戸 淳子 (Terado Junko) (80311249)	国際ファッション専門職大学・国際ファッション学部・准教授 (32828)	
研究分担者	岩谷 彩子 (Iwatani Ayako) (90469205)	京都大学・人間・環境学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	小田 龍哉 (Oda Ryosuke) (90821744)	同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員 (34310)	
研究分担者	藤本 憲正 (Fujimoto Norimasa) (90847203)	国際日本文化研究センター・研究部・プロジェクト研究員 (64302)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	上村 静 (Uemura Shizuka) (00447319)	尚絅学院大学・総合人間科学系・教授 (31311)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 翻訳不能なものを翻訳する ポストコロナル研究の遺産	開催年 2020年～2020年
-------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------